

第13回 建コンフォト大賞

あなたのお気に入りの“土木施設”

当協会では、広く一般の方々の土木施設への興味を高め、建設コンサルタントをより知っていただくために、2009（平成21）年度よりフォトコンテスト「建コンフォト大賞」を開催しています。2022（令和4）年度も、「あなたのお気に入りの“土木施設”」をテーマに募集し、305点のご応募をいただきました。

また本年度もグリーンインフラ官民連携プラットフォーム、企画・広報部会にご協力いただき、「グリーンインフラ特別賞」を設置しました。

当協会ホームページやフォトコンテストに関する情報提供サイトへの掲載、全国の高校写真部へのチラシ配布などで作品を募り、全国の幅広い年齢層の方々に、道路や橋、鉄道、上下水道、空港や港、公園や堤防など、私たちの日常生活を支える土木施設のある風景の写真を撮影していただきました。

審査方法

ご応募いただいた作品は、審査委員（5名）による審査会にて審査しました。

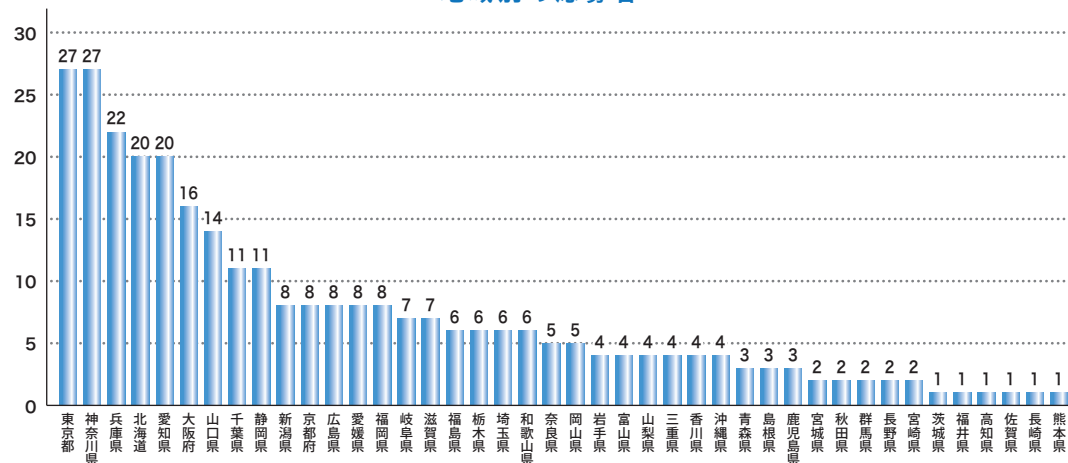
審査委員

審査委員長	宇於崎 勝也	（日本大学教授）
	知野 泰明	（日本大学准教授）
	八馬 智	（千葉工業大学教授）
	初芝 成應	（日本写真作家協会員）
	野崎 秀則	（建設コンサルタンツ協会広報戦略委員長）

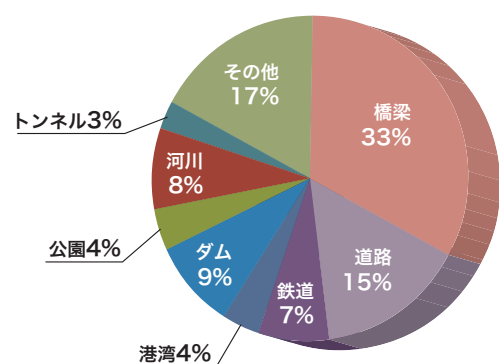
審査結果

最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞10点、グリーンインフラ特別賞2点を決定しました。
入賞作品と講評は次ページ以降に掲載します。

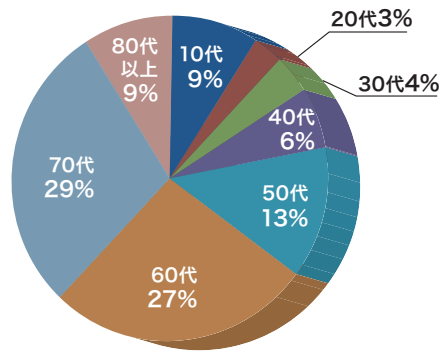
地域別の応募者



写真撮影の対象



応募者の年代



最優秀賞



「海の番人」

奈良県 松本 直己
（撮影地：和歌山県田辺市）

【撮影者のコメント】

和歌山県田辺湾湾口の沖合2キロメートルに設置されている田辺中島高潮観測塔は、田辺湾を中心とした沿岸域の気象および海象現象を総合的に観測しているそうです。

鮮やかなイエローの構造物が海上に突き出ている情景は、さながら黄色いロボットが周辺海域の交通誘導をしているようで非常に印象的でした。

写真はこの構造物をより一層魅力的に表現するため、夜明け前に270秒の長秒で前を行き交う漁船の灯りを光跡として取り込み、海の番人として海域の安全を見守っているようなイメージで撮影しました。

講評

長時間露光の効果で、波が平準化され、行き交う漁船の灯りが幾筋にも残像となって幻想的な風景を生み出した。不動の高潮観測塔が中央に屹立し、土木施設が自然に対して、ひとり挑み続ける姿を見せてくれている。（宇於崎審査委員長）

題された「海の番人」は左手にトーチをかざし、日夜、荒波にも耐えて潮位を観測する雄姿となりました。ピンク色の五線譜の上に立つ指揮者の様にも見え、五線譜となった船団を見守ります。撮影技術が光ります。（知野審査委員）

微妙に揺らぐ光のラインの中央に、妙なリアリティを伴った高潮観測塔がある。長時間露光で得た空と海のパステルカラーが見事に調和して、幻想的で浮遊感のあるユニークな世界観を見せてくれる。（八馬審査委員）

2キロメートル先の海上に設置された構築物を、ブレなく撮影するのはかなり困難です。コメントを読まなければ、漁船の光跡を加工線かと思誤るところです。この作品は厳しい撮影現場での刻一刻変化する状況を巧みに捉えた、経験と技術の高さを感じると同時に、重要な高潮観測の役目が分かります。（初芝審査委員）

田辺湾にひっそりと佇む高潮観測塔。黄色い観測塔が青い静かな海を見守っているところが幻想的です。（野崎審査委員）



「朱の千本鳥居」

大阪府 栗原 正隆

(撮影地：京都府八幡市)

【撮影者のコメント】

近代化産業遺産でもある京阪電鉄・木津川橋梁（1927（昭和2）年架橋）。

特急通過後の開いた踏切から安全に列車を後追いで、橋梁の中を覗き込むようにして撮影しています。プラットトラス9連の橋梁内部を望遠圧縮にて束ねてみたら、連続した赤い鋼材の重なり具合が当京阪沿線でも屈指の有名観光地である伏見稲荷大社の朱色の「千本鳥居」のように見えてきました。朱色のトラス橋と青い車体カラーの3000系特急のコントラストも対照的で印象に残りました。

講 評

完成したばかりのような色鮮やかな橋りょう上部プラットトラスが映え、遠ざかる青い車体がまさに「千本鳥居」をくぐり抜けようとする瞬間を捉えており、色合い、構図ともに非常に印象的な作品となっている。（宇於崎審査委員長）

赤く連続したトラス橋が鳥居の連想を誘いました。構造と色彩は、組合せ次第で様々な印象を想起させることを伝える作品です。（知野審査委員）

古いトラス橋とそこを通り過ぎる列車を、線路上の視点から捉えた一枚。繊細な部材が連続的に構成されているトラス橋の豊かな表情が、画面の大部分を占める鮮やかな朱が、圧倒的な迫力で収められている。（八馬審査委員）

あえてこの作品は周辺の情景を全く出さず、ひたすら真っ赤な朱色の橋梁を前面に強調して、特急列車の走り去る残像が僅かに橋梁と列車を印象付け、朱色の橋梁に圧倒される絶対的な安定感を醸し出しており、引いて見る全体の橋梁はどう映るのか、見る者に想像をかきたてる作品です。（初芝審査委員）

伏見稲荷大社の朱色の「千本鳥居」を連想させる木津川橋梁。朱色のトラス橋と青色の車両のコントラストが印象的です。（野崎審査委員）



「おさんぽ探検」

埼玉県 忽那 博史

(撮影地：埼玉県さいたま市)

【撮影者のコメント】

明治時代の建造物が、いまだ現役で活躍していることに驚きを隠せません。

荒川の洪水をくい止めるべく先人たちが苦勞し、一丸となって建設に取り組んだ貴重な土木遺産に、当時への思いを馳せながら水門橋をお散歩しました。

講 評

1904(明治37)年建設の治水水門千貫樋^{せんがんび れんが}の煉瓦造アーチの中で、飼い犬との散歩の途中でふと立ち止まった瞬間のシルエットが、取り囲む煉瓦の壁の中にちょうどよく収まった、静かな安定感を感じさせる作品となっている。（宇於崎審査委員長）

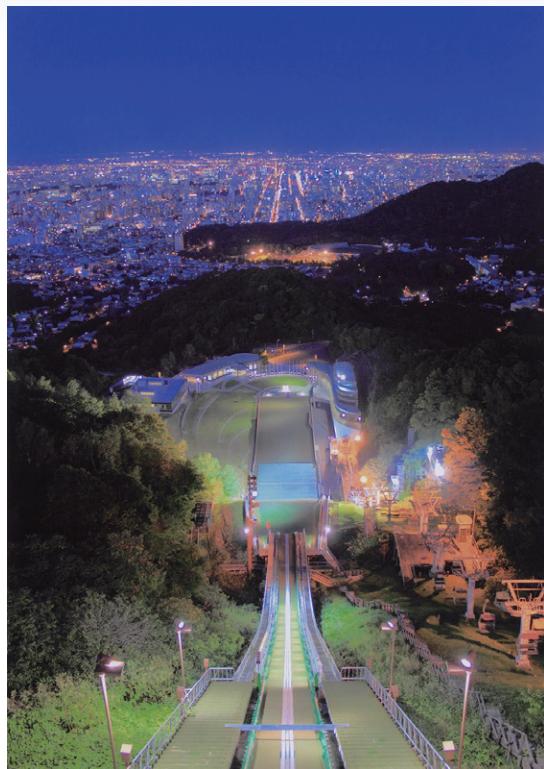
色彩と中心の光が小犬と飼い主を愛らしい影絵として引き立てます。背景は明治の煉瓦構造物。直線と細やかな区切り線は蛇紋の様です。不思議な空間が活写されました。（知野審査委員）

人と犬の日常的な関係を、明治の構造物という非日常の空間の中で、ドラマチックに描き出している。中央に視線を集める構図と色調が秀逸な作品で、印象に強く残る。（八馬審査委員）

散歩のワンちゃんに手を差し伸べている何処でもみられる情景ですが、端正に積み上げた煉瓦で、張り巡らされた内部は、出口の付近から差し込む光を有効に使い、散歩中の人物とワンちゃんをシルエットで面白く表現されて、水門橋内部の暗部を払拭した。壁・天井・床などの表面を美しく捉えた作品です。（初芝審査委員）

かつて荒川の洪水から街を守っていた千貫樋。その歴史に思いを馳せながらの散歩。なにか絵本の1ページを飾る心温まるシーン。シルエットが美しい。（野崎審査委員）

特別賞



「大倉山の夜景」
神奈川県 佐藤 卓生
(撮影地：北海道札幌市)

【撮影者のコメント】

撮影当時はリフトの営業時間が18時までだったため、日の短い季節だけ夜景を見ることができました。
大倉山スキー場ジャンプ台の頂部にある建屋の屋上で撮影しています。スキー場施設を見下ろすことができ、奥には札幌市中心部の夜景が鑑賞できるお気に入りの場所です。大通公園からもこちらが見えます。

講 評

スキージャンプで何度も名シーンを生み出してきた大倉山ジャンプ競技場。展望ラウンジからは、これから飛び出そうとする選手の気分を味わえる。「こんな高いところから…。遠くの美しい札幌の夜景に吸い込まれそうになる。

特別賞



「明地峠の雲海と送電線」
島根県 児島 巧
(撮影地：鳥取県日野郡日野町)

【撮影者のコメント】

鳥取県日野郡日野町の明地峠より晩秋の朝の雲海を撮影しました。遠くに雪抱く大山、雲海の中に浮かぶ送電線を中央に配置しました。この日は山をまたぎ電気を送る送電線が朝日に照らされ、神秘的に輝いていました。

講 評

真綿の様な雲海の中、聳える山脈と送電線の鉄塔が対峙しながら会話をしている様です。神々しさまで漂います。神秘的に写し撮るにはどの様な技法が用いられるのでしょうか。



「魚道」
愛知県 嶋田 茂雄
(撮影地：愛知県新城市)

【撮影者のコメント】

夏になると必ず一度は訪れたい涼しい場所で私のお気に入りの場所でもあります。特に魚道の流れがリターンして逆の流れになる部分を見ていると不思議な感じです。水の流れの面白さをスローシャッターで表現できたらと思い、NDフィルターを使って表現しました。

講 評

水が流れる様子がスローシャッターで捉えられている。堰堤の直線的な流れと魚道の複雑に動く流れとが対比的に表現されており、しっとりとした味わい深さが創出されている。



「大噴水」
山梨県 星野 郁男
(撮影地：神奈川県相模原市)

【撮影者のコメント】

公園内の中央部にある大噴水の池の水が逆光にキラメキ、水が生き生きと深く池の底まで見られる光景に出会いました。噴水の全体を取り込みたくて魚眼レンズを使用して、太陽から池全体を1つの画にまとめました。

講 評

原色の美しい配置の中で、噴水は冠飾りの様な氷柱となり、落水が水面の文様を生み出します。人が作った噴水と光が為し得た一瞬です。輝く太陽の正中までが入っていることに作者の想いを感じます。

特別賞



「山脈と競うがごとく」

宮城県 八木 英雄
(撮影地：新潟県新潟市)

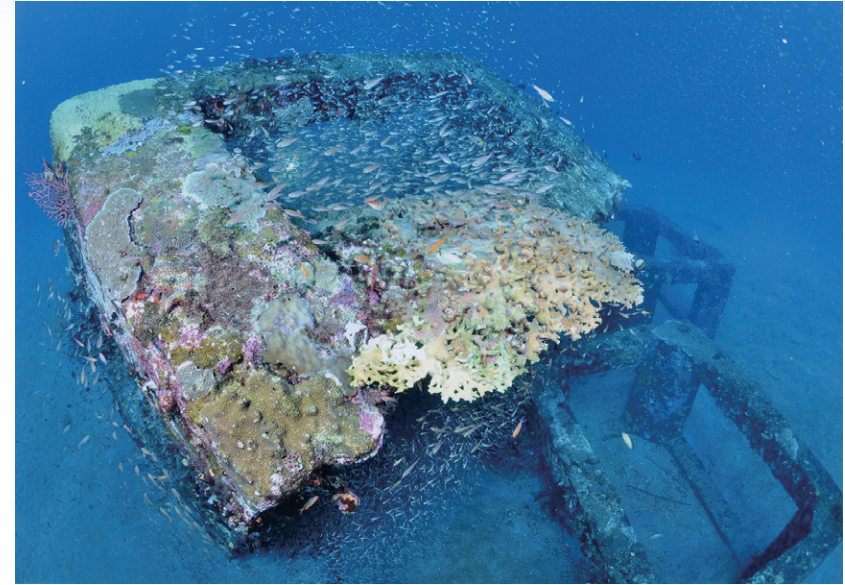
【撮影者のコメント】

曲弦トラス型鋼橋が数百メートル。見る位置を変えると長さが圧縮され重厚な感じに変わりました。背景の山脈に対峙する存在になりました。

講 評

トラス橋の連続するアーチ形状が背景の折り重なる山々と呼応するかの如く、双方の力強さを引き立てあっている。山々のうっすらとした雪景色が橋梁の深い青をさらに引き立て、大自然にも勝る人工的な美を表出している。

特別賞



「^{ぎょしょう}漁礁」

神奈川県 谷口 常雄
(撮影地：鹿児島県熊毛郡屋久島町)

【撮影者のコメント】

海底で良く目にする漁礁です。漁礁は水中生物の住家となるように人間の手によって海に沈めた固形物です。長い年月を経て魚たちの隠れ場所として活用され、また表面はサンゴが育ち、これからもっと美しい光景となって行きます。

講 評

海底に置かれた漁礁を捉えた水中写真。表面にはサンゴが育ち彩りを添え、そこを無数の小魚が取り巻いている。海中で豊かな環境が形成されていることがよく伝わってくる。



「天空の橋」

東京都 杉山 薫
(撮影地：埼玉県秩父市)

【撮影者のコメント】

秩父盆地の早朝。朝霧の中に柱だけが見える秩父ハープ橋は、まるで、空に架かった橋のようです。

講 評

朝霧の中に浮かぶ秩父ハープ橋。幻想的でかつ美しい。ハープ橋が手前の街並みと奥の山に挟まれる位置にあり、奥行き感がある。その中で、朝霧がハープ橋を浮かび上がらせ、幻想的な印象を高めている。



「大海の導」

愛媛県 杉浦 正幸
(撮影地：高知県土佐清水市)

【撮影者のコメント】

台風の去った翌日に、日没後の足摺岬^{あしずり}灯台を撮影しました。1914（大正3）年に点灯されて以来、嵐の夜も海と船を見守り続けた白亜の雄姿に安心を抱き、また光の先の大海を往く船の光に人の営みを感じました。

講 評

100年を経た光の道案内人が海原のステージをスポットライトで照らします。現れるのはマーメイドか海神か。映画は手前の岩礁にて続くかのようです。写真ならではの舞台です。

特別賞



「あ〜夏休み！」

京都府 田中 雅之

(撮影地：滋賀県愛知郡愛荘町)

【撮影者のコメント】

春は桜に秋は紅葉、季節ごとに見どころのある宇曾川渓谷・・・石積みの大堰堤の下には親水護岸が整備され、夏には子供たちの歓声が聞こえてきます。大自然に抱かれながら魚獲りや川遊び、大人も子供も一緒に楽しめる素敵な場所なのです。

講 評

宇曾川渓谷にある大堰堤。下流の街を守る堰堤周辺で、家族や子供たちが思い思いに楽しむ風景が微笑ましい。木々の緑と流れる水のコントラストが美しい。



「トワイライト」

愛媛県 芝崎 静雄

(撮影地：愛媛県今治市)

【撮影者のコメント】

亀老山展望台からの瀬戸内海の島々を結ぶ西瀬戸自動車道は、西の空が赤く染まる黄昏時に、海はブルーとなり、橋を走る車のテールランプは赤い光跡となり、ライトアップされた橋の直線と曲線の美しさが際立つ時間帯に撮影しました。

講 評

青暗い海原が目前に迫る夕暮れ時の、僅かに残された褐色に染まった夜空が美しい。対岸の灯も僅かに見える暗い世界を、ライトアップされた大橋の線形美が強調されて、暗い海原を未来の明るさに導いている。暗い海原と褐色の夕暮れ時を、大橋を中心に据えたバランスの美を引き立てている作品です。

【入賞作品マップ】

特別賞

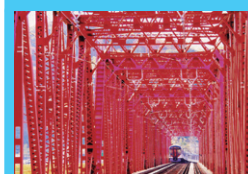


「明地峠の雲海と送電線」

児島 巧

(撮影地：鳥取県日野郡日野町)

優秀賞



「朱の千本鳥居」

栗原 正隆

(撮影地：京都府八幡市)

特別賞



「山脈と競うがごとく」

八木 英雄

(撮影地：新潟県新潟市)

グリーンインフラ特別賞



「ぼくらの遊び場」

藤元 麻未

(撮影地：岡山県岡山市)

グリーンインフラ特別賞



「棚田を守る」

村田 利子

(撮影地：島根県鹿足郡津和野町)

特別賞



「トワイライト」

芝崎 静雄

(撮影地：愛媛県今治市)

特別賞

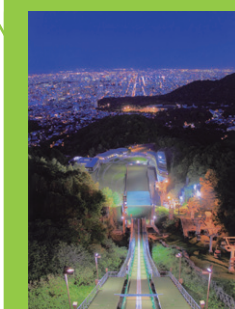


「天空の橋」

杉山 薫

(撮影地：埼玉県秩父市)

特別賞

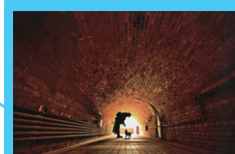


「大倉山の夜景」

佐藤 卓生

(撮影地：北海道札幌市)

優秀賞



「おさんぽ探検」

忽那 博史

(撮影地：埼玉県さいたま市)

特別賞



「大噴水」

星野 郁男

(撮影地：神奈川県相模原市)

特別賞



「あ〜夏休み！」

田中 雅之

(撮影地：滋賀県愛知郡愛荘町)

特別賞

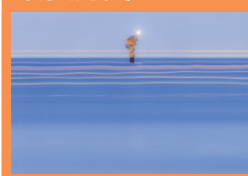


「魚道」

嶋田 茂雄

(撮影地：愛知県新城市)

最優秀賞



「海の番人」

松本 直己

(撮影地：和歌山県田辺市)

特別賞



「大海の導」

杉浦 正幸

(撮影地：高知県土佐清水市)

特別賞



「漁礁」

谷口 常雄

(撮影地：鹿児島県熊毛郡屋久島町)



グリーンインフラ 特別賞

趣旨・目的

成熟社会を迎えた我が国では、経済成長だけではなく、自然豊かで良好な環境で健康に暮らすことができる社会を求める価値観の劇的な変化が起きています。これからの時代、人が自然とより良く関わることでできる緑と水の豊かな生活空間を形成することが、さらに求められていくと考えます。

一方で、気候変動に伴う自然災害の頻発・激甚化、人口減少・少子高齢化の進展に伴う管理放棄地など様々な課題への対応が必要となっています。

「グリーンインフラ」とは、自然環境の持つ多様な機能を賢く利用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組みであり、地域が抱える様々な課題への対応策の一つとして国土形成計画(国土交通省)等に盛り込まれた取組みです。また、グリーンインフラの推進は、SDGsの目標達成にも貢献するものと期待されています。

そこで、より多くの人々にグリーンインフラの取組みを知ってもらい、取組みの社会的普及を目的として、「グリーンインフラ特別賞」を設置しております。

なお、本賞の選定にあたっては、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム、企画・広報部会にご協力を頂きました。

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

グリーンインフラ官民連携プラットフォームは、多様な主体の積極的な参画及び官民連携により、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用したグリーンインフラを推進し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりにつなげることを目的に、2020(令和2)年3月19日に設立されました。



グリーンインフラ特別賞



「ぼくらの遊び場」

岡山県 藤元 麻未

(撮影地：岡山県岡山市)

【撮影者のコメント】

河川に綺麗に並べられている十字ブロック。川の水が少ない時にはその様子がよく見えます。中でも隙間に溜まった水の中には何か生き物がいるかもしれない!? そんなワクワク心さえ掻き立てられる場所です。夏休みを利用し、息子たちと遊びに来てみたときの写真。十字ブロックで鬼ごっこしてみたり、水遊びをしたり、楽しそうでした♪

講評

とこがため

河川床固に利用される一般的な土木構造物として無機質なものであるが、時の経過により結果として生態系が入り込み、自然との調和がみられる。単に、防災のための整備ではなく、生態系を考慮しつつ計画的に設置することで生態系育成にも寄与する、今後のグリーンインフラのあり方を考えさせられる写真である。



「棚田を守る」

山口県 村田 利子

(撮影地：島根県鹿足郡津和野町)

【撮影者のコメント】

津和野の秀峰青野山のふもとと麓耕地区では毎年4～5月上旬にかけて1万株ものつつじが見られます。田植えの前で水が入った時期でしたので襦袢の写り込み、つつじ、広がる棚田を1枚に収める事が出来ました。これからも、この美しい日本の田園風景を継承してほしいと願います。

講評

鮮やかに色づいたつつじ、こいのぼりが棚田の景観と調和しており、人々の生活感も感じられる里山でのグリーンインフラをイメージさせる写真である。